

愛寿会 たより

8月号
第98号
平成19年
8月1日発行



【 第二仁生園 開所式 】

麓に根づく

雄大な八ヶ岳の裾野に広がる北杜市長坂町小荒間に創設された愛寿会仁生園、地域に根を張り長寿社会に対応した施設、地域住民の心強い糧となり、数限りない安堵を与えてくれております。

これからの社会構造は、核家族型もどんどん進んで行くものと思われれます。このようなか、高齢者福祉介護における要望は増々広がり、貴施設における役割は非常に高まるものと推察され、さらなる期待が寄せられることと思えます。

私達は、仕事や人間関係が順調にいつて、今日はあるがたい一日だったと喜ぶ日もあれば、また一方では不平不満のうちに一日を過ごすこともありませう。一日を感謝で送ることもでき、不平不満で過ごすこともできるわけですが、どちらも同じように過ぎていく一日で、二度と帰ってこないのです。

貴施設で介護に従事する園長さんをはじめ、スタッフの皆様日夜ご健闘するお姿に接した時さながら天使そのものであります。貴施設に入所されている皆様、ご関係のご家族、周

囲の我々にもひしひしと伝わり、心強いものをおぼえます。

人は、一人では生きて行けるものでないことは周知のとおりだと思えます。人はまた、はなはだかよわいと思えますが、施設に入所されている皆様は、施設で天使のごとき皆様の姿にふれることにより、心強く、また元氣を取りもどすことができるのです。

私も、この雄大な八ヶ岳の麓で生まれ一生を過ごすことの出来るうれしき、何事にも変えることのない幸せを味わい少しでも社会のために役立つ所存です。

高齢化社会にむかって福祉行政は不変のものでなければと思えます。

また第二仁生園が本年七月一日からオープンしました。機能回復はかりながら授産の仕事に復帰し、明るい人生も同時に送ることが出来る施設、非常にありがたいことと思えます。

八ヶ岳の麓に、愛寿会仁生園、第二仁生園の二つの施設、自然とともに共存出来、幸せいっぱいの花が咲きほこること、うたがないいでしよう。

むすびに皆様の益々のご健勝と、貴社会福祉法人愛寿会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

北杜市教育委員長 藤森 三男

料金後納郵便

差出人(差出發送代行)
7-4 佐川物流サービス(株)
返送先: 〒140-0012
品川区勝島 1-1-1

申子小包

このお荷物はご依頼人様からお預かりした荷物を当社が差出人となって発送代行いたします。

障害者の自立支援を目指して

第二仁生園竣工式・板山理事長式辞

風薫り、新緑萌える本日、ここに障害者自立支援施設「第二仁生園」の竣工・開所式を開催いたしましたところ、ご多用の中、多くの方々のご参加をいただきましてありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

社会福祉法人愛寿会が、ここ小荒間の地で「特別養護老人ホーム仁生園」の開所を目指してスタートいたしましたのが、昭和四十七年七月のことでありますから、この七月で満三十五年ということになります。

この三十五年を振り返りますとまさに「山あり、谷あり」でありましたが、幸い「八ヶ岳南麓に仁生園あり」という評価をいただけるまでに成長してまいりました。

ひとえに北杜市をはじめとする関係者の皆さん、とりわけご参会の皆様のご支援によるものとあらためて厚く御礼を申し上げます。私は、かねがね「ひとつの物事」を成し遂げるためには「天の時、地の利、人の和」が肝心だと考えております。

愛寿会、三十五年の歴史もそうした「三つの条件」があればこそと感じ入っております。本日、竣工を見ました「第二仁生園」もまたこの「三条件」があればこそ実現したものと申せましょう。

「天の時」とは、昨年制定されました障害者自立支援法の施行、国際連合が採択しました「障害者権利条約」への対応等、今、障害者福祉は、大きく動くこうとしている時期であります。

「地の利」とは、ここ小荒間の地に旧長坂町及び北杜市当局のご好意により二千四百坪というすばらしい土地を貸与されたことでもあります。

「人の和」とは、小澤副理事長を中心とする役員、清水、小池両施設長を中核とするスタッフ、そして地元小荒間区、また水利の権利を有する三ヶ区、市・県・国関係者のご理解とご支援の「絆」のひろがりであります。

このチャンスを活かしたい。このことが今日、八ヶ岳南麓、北杜市に必要とされている重度、重複の障害をもつ人々の「生活支援施設・第二仁生園」の建設にふみ切ったエネルギーであります。とは申しながら、この仕事は大変むずかしい仕事でありました。

とりわけ厳しい状況の下で誠意を持って施設的设计、施工にあたられた株式会社石本建築事務所並びに株式会社新津組、特殊興業株式会社の方々のご努力に心から感謝をささげたいと存じます。

私ども愛寿会は、創立三十五周年を機に障害者福祉事業に新たな一歩を踏み出そうとしております。

「小さく生んで大きく育てよう」を合言葉に「第二仁生園」はスタートします。

「利用者中心主義」をモットーに利用者の方々と、ご家族の方々、そして地域社会の皆さんのご協力を得ながら小池施設長を中心とするスタッフがチームを組んで努力してまいります。

どうか、暖かいご支援とご協力を賜りますようお願いしてごあいさついたします。



第二仁生園では、入所・通所希望者を募集しております。

常に介護が必要な障害者で、家庭では介護することが難しい方が対象となります。

平屋の完全個室でプライバシーを尊重し、快適な生活ができるよう配慮するなど、ご家族の方々が安心して利用者の方を託すことができる施設となっております。

入所等詳細につきましては、お問い合わせ下さい。

第二仁生園 ○五五一一三二一八二七〇

～七月の行事から～

七月十五日(日) 高根町から、あかね会の皆様が踊りのボランティアで来園されました。普段見ることが少なくなつた、着物や紋付袴姿に入所者の皆様も大変喜ばれ、黒田節や武田節、五木の子守唄等の踊りに皆さん見入っていらつしやいました。



【 踊りをご覧になる入所者の皆様 】

ご家族のみな様へお願い

ご登録いただいた緊急連絡先または介護・医療保険証等に変更または更新がある場合には、仁生園までご連絡のうえ提出ください。

担当 相談員 坂本 仁

～防災対策委員会～

私達委員は園の防災対策として、入所者のみなさまと職員のご協力により委員会の開催と防災訓練・防災設備の点検等を毎月行なっております。

今回は専門業者による防災設備の点検を行ないました。

点検項目については

○ 消火器の設置場所

○ 非常放送設備の動作

等ありますが、点検の結果は特に問題なく安全が確保されておりました。

今後も委員会を通して『いざ』という時の為に、入所者のみなさまと職員に防災の意識を高めていただけるように活動していく所存であります。



暑中お見舞い

申し上げます

平成十九年 盛夏

暑さ厳しい折から みな様の

ご健康を心よりお祈りいたします。

社会福祉法人 愛寿会

福祉総合生活支援センター 仁生園

理事長 板山 賢治

副理事長 小澤 澄夫

統括施設長 清水 久雄

法人事務局長 根津 英雄

第二仁生園園長 小池 光夫

外役職員一同

介護保険事業

・ 特別養護老人ホーム 百三十二名

・ ショートステイセンター 十三名

・ デイサービスセンター 三十名

・ グループホーム「やすらぎ」 九名

介護相談センター

障害者自立支援事業

・ 障害者自立支援ホーム 三十名

・ ショートステイセンター 三名

老人保健事業

・ 生活支援ハウス「こあらま」 九名

